

日本ナサニエル・ホーソーン協会資料室  
堀切大史（日本大学）  
鈴木孝（日本大学）  
奈良裕美子（諏訪東京理科大学）

## I. Books

- 伊藤詔子監修・新田玲子編集『カウンターナラティブから語るアメリカ文学』音羽書房鶴見書店（2012）  
岩田強『文豪ホーソンと近親相姦』愛育社（2012）  
サウンディングズ英語英米文学会編・飯野友幸監修『アメリカン・ロマンスの系譜形成—ホーソンからオジックまで—』金星堂（2012）  
竹村和子『文学力の挑戦—ファミリー・欲望・テロリズム—』研究社（2012）  
成田雅彦『ホーソンと孤児の時代—アメリカン・ルネサンスの精神史をめぐって—』ミネルヴァ書房（2012）  
日本ナサニエル・ホーソーン協会九州支部研究会編『ロマンスの迷宮—ホーソンに迫る 15 のまなざし—』英宝社（2013）  
半藤正夫『「記憶の河」を渡った旅人たち—ホーソン、フォークナー、モリス—それぞれの旅路—』太陽書房（2011）

## II. Bibliographies

## III. Translations

- 阿野文朗（訳）『ラパチーニの娘—ナサニエル・ホーソン短編集—』松柏社（2013）  
小川高義（訳）『緋文字』（光文社古典新訳文庫）光文社（2013）

## IV. Articles

- 青井格「『アメリカン・ノートブックス』再考」『ロマンスの迷宮—ホーソンに迫る 15 のまなざし—』 pp. 175-90.  
秋好礼子「女性の身体を見る視線—「痣」とホーソンと同時代の女性たちの言説—」『ロマンスの迷宮—ホーソンに迫る 15 のまなざし—』 pp. 137-56.  
生田和也「家庭の中の子どもたち—「雪人形」と「ちいさなアニーの散歩」における子ども像—」『ロマンスの迷宮—ホーソンに迫る 15 のまなざし—』 pp. 118-36.  
伊藤詔子「ポー、ホーソン、ダゲレオタイプ—真実の露出と魔術的霊気のはざままで—」『ロマンスの迷宮—ホーソンに迫る 15 のまなざし—』 pp. 193-215.  
稲富百合子「『ブライズデイル・ロマンス』における改革運動—〈共感〉の観点から—」『ロマンスの迷宮—ホーソンに迫る 15 のまなざし—』 pp. 61-77.  
大島由起子「メルヴィルとホーソン—『クラレル』と「哀悼詩」にみるヴァイン—」『ロマンスの迷宮—ホーソンに迫る 15 のまなざし—』 pp. 216-33.  
大杉博昭「ディキンソン、フラワー、ホーソンの理解者としてのヒギンソン」『ロマンスの迷宮—ホーソンに迫る 15 のまなざし—』 pp. 234-52.  
大谷香奈「Coverdale をめぐって—*The Blithedale Romance* の一考察—」『Evergreen』33 昭和女子大学（2012） pp. 43-60.  
尾崎裕子「ナサニエル・ホーソーンの「僕の親戚、モリヌー少佐」：エゴイズムの主題を中心に」『立命館英米文学』21 立命館大学英米文学会（2012） pp. 72-92.

- 城戸光世「廢墟のロマンス/ロマンスの廢墟—ホーソーンのイタリア旅行記にみるアメリカの未来図」『カウンターナラティブから語るアメリカ文学』 pp. 21-37.
- 城戸光世「もう一つのファミリー・ロマンス—ハウスキーピングの物語として読む『七破風の家』—」『ロマンスの迷宮—ホーソーンに迫る 15 のまなざし—』 pp. 43-60.
- 小久保潤子「*The Blithedale Romance*に見られる女性の身体のスペクタクル化について：ヴェールを手掛かりに」『大妻女子大学紀要』文系 45 大妻女子大学 (2013) pp. 224-18.
- 古平ユキ「ウェイクフィールドの失踪と帰還：ホーソーンの影響」『鶴見英語英米文学研究』13 鶴見大学 (2012) pp. 35-50.
- 齋藤寿葉「『七破風の家』における疑似的母子関係の作用」『フォーラム』18 日本ナサニエル・ホーソーン協会 (2013) pp. 1-17.
- 齊藤園子「『アspan文書』とホーソーンの影響」『ロマンスの迷宮—ホーソーンに迫る 15 のまなざし—』 pp. 253-72.
- 庄司宏子「“Young America Movement”とホーソーン：“A Select Party”にみる *The Democratic Review* が牽引した時代」『成蹊英語英文学研究』16 成蹊大学文学部学会 (2012) pp. 39-51.
- 砂川典子「メスメリズムとアメリカ小説：*The Blithedale Romance* と *The Bostonians*」『比較文化研究』102 日本比較文化学会 (2012) pp. 67-76.
- 高島まり子「主人公の成長と〈影〉との関わり—イルブラヒムからディムズデルへ—」『ロマンスの迷宮—ホーソーンに迫る 15 のまなざし—』 pp. 99-117.
- 竹内勝徳「革命を呼び込む移民の行方—チャールズ・クライツァーの言語理論と『緋文字』—」『ロマンスの迷宮—ホーソーンに迫る 15 のまなざし—』 pp. 5-23.
- 田中久男「*The House of the Seven Gables*における Nathaniel Hawthorne の歴史感覚とニューイングランド表象」『福山大学人間文化学部紀要』12 福山大学人間文化学部 (2012) pp. 43-57.
- 中嶋寿子「*The Scarlet Letter*における Dimmesdale のカタルシス」『熊本学園大学文学・言語学論集』19 (1) 熊本学園大学 (2012) pp. 81-96.
- 中西佳世子「浦賀の「流星」とプロヴィデンス：ペリーとホーソーンと日本開国」『アメリカ研究』46 アメリカ学会 (2012) pp. 147-66.
- 中村栄造「「ヤング・グッドマン・ブラウン」と〈エロティックなもの〉」『名城大学人文紀要』48 (1) 名城大学人文研究会 (2012) pp. 17-27.
- 真木彰子「ぼくの親戚モーリノー少佐：“The Absent One”の意味するもの」『鶴見英語英米文学研究』13 鶴見大学 (2012) pp. 51-68.
- 松尾満「七破風の屋敷：新しい時代の波」『大阪商業大学論集』8 (2) 大阪商業大学商経学会 (2012) pp. 19-29.
- 松尾祐美子「時計を巡る—考察—「美の芸術家」における時間と近代科学の意識—」『ロマンスの迷宮—ホーソーンに迫る 15 のまなざし—』 pp. 157-74.
- 向井久美子「ケニヨンのノン・フィニートとホーソーンの詩的美意識」『ロマンスの迷宮—ホーソーンに迫る 15 のまなざし—』 pp. 78-96.
- 村田希巳子「緋文字のゴシシズム」『ロマンスの迷宮—ホーソーンに迫る 15 のまなざし—』 pp. 24-42.
- 米山正文「緋色の家族：家庭小説としての『緋文字』」『宇都宮大学国際学部研究論集』34 宇都宮大学 (2012) pp. 89-104.
- Hayashi, Yukitoshi. “A trip to Boston: Visiting places in connection with Nathaniel Hawthorne” 『釧路工業高等専門学校紀要』46 釧路工業高等専門学校 (2012) pp. 55-64.
- Sasaki, Eitetsu. “Perverse Love and Gender in the Sacred Father: Reading the American Way in Hawthorne’s *The Scarlet Letter*” 『英米評論』26 桃山学院大学総合研究所 (2012) pp. 47-71.

## V. Reviews

- 川窪啓資『エマソンの思想の形成と展開—朱子の教義との比較的考察—』(高梨良夫著)『フォーラム』18 日本ナサニエル・ホーソーン協会 (2013) pp. 19-26.
- 佐野陽子 *Hawthorne's Fuller Mystery*. (Thomas R. Mitchell 著)『フォーラム』18 日本ナサニエル・ホーソーン協会 (2013) pp. 39-47.
- 高尾直知『ホーソーンと孤児の時代—アメリカン・ルネサンスの精神史をめぐって』(成田雅彦著)『フォーラム』18 日本ナサニエル・ホーソーン協会 (2013) pp. 27-34.
- 高橋利明『ホーソーン研究—神話と伝説と歴史』(松阪仁伺著)『フォーラム』18 日本ナサニエル・ホーソーン協会 (2013) pp. 35-37.

## VI. Essays & Miscellanies

- 川村幸夫「東京支部研究会」 『NHSJ Newsletter』 31 (2013) p. 11.
- 「事務局だより」 『NHSJ Newsletter』 31 (2013) p. 16.
- 倉橋洋子「中部支部研究会」 『NHSJ Newsletter』 31 (2013) p. 12.
- 高尾直知「国際渉外室だより」 協会ホームページ
- 高島まり子「九州支部研究会」 『NHSJ Newsletter』 31 (2013) p. 14.
- 丹羽隆昭「会長挨拶」 『NHSJ Newsletter』 31 (2013) p. 1.
- 「関西支部研究会」 『NHSJ Newsletter』 31 (2013) p. 13.
- 堀切大史「資料室だより」 『NHSJ Newsletter』 31 (2013) p. 16.
- 増永俊一「編集室だより」 『NHSJ Newsletter』 31 (2013) p. 15.
- Arai, Keiko. "Hawthorne's American Girl: Nation and Gender in *The Marble Faun*." 『NHSJ Newsletter』 31 (2013) p. 2.
- Iriko, Fumiko. "*The Scarlet Letter* and Its Surrounding Sea in the Seventeenth Century." 『NHSJ Newsletter』 31 (2013) p. 10.
- Kido, Mitsuyo. "'The Queen of Journalizers': Sophia Peabody Hawthorne as an Author in *Notes in England and Italy*." 『NHSJ Newsletter』 31 (2013) pp. 5-6.
- Kurahashi, Yoko. "Peabody Sisters and Hawthorne: The Attitude and Viewpoints towards Europe and Middle and South America." 『NHSJ Newsletter』 31 (2013) p. 4.
- . "*Juanita* Based on Mary Peabody's Experience in Cuba." 『NHSJ Newsletter』 31 (2013) pp. 6-7.
- Marshall, Megan. "Her Kindred Art': Sophia Peabody as Nathaniel Hawthorne's Soul Mate." 『NHSJ Newsletter』 31 (2013) pp. 7-9.
- Matsuki, Satoru. "Salem: A Port Town and Flourishing Base of Overseas Trade." 『NHSJ Newsletter』 31 (2013) p. 10.
- Ohsugi, Hiroaki. "To Promote Nathaniel Hawthorne: Elizabeth Palmer Peabody's 4 Letters to William Wordsworth." 『NHSJ Newsletter』 31 (2013) pp. 4-5.
- Ono, Misa. "Nathaniel Hawthorne and the Sea." 『NHSJ Newsletter』 31 (2013) p. 9.
- . "Nathaniel Hawthorne and the Mariners." 『NHSJ Newsletter』 31 (2013) p. 9.
- Sak, Taras Alexander. "'The Vanquished': Rereading the Hawthorne-Melville Friendship." 『NHSJ Newsletter』 31 (2013) pp. 2-3.
- Sasaki, Eitetsu. "Melville's Authorship in Self-Imposed Jingoism: *Billy Budd* and Hawthorne." 『NHSJ Newsletter』 31 (2013) pp. 3-4.
- Shindo, Suzuko. "Cuba in an Antebellum Black Novel." 『NHSJ Newsletter』 31 (2013) p. 6.

補遺

## Articles

笠原慎一郎 「Zenobia と Priscilla から考察する Hawthorne の描く女性像の限界」『明星英米文学』20 明星大学英米語学文学会 (2005) pp. 65-77.

--- 「*The Marble Faun* から考察する汚れ無き者の罪」『明星大学大学院英米文学』12 明星大学大学院英米文学研究会 (2005) pp. 17-35.

--- 「*The Scarlet Letter* から考察する Hawthorne のインディアン像」『明星英米文学』21 明星大学英米語学文学会 (2006) pp. 53-66.

--- 「「気がつかない」登場人物の特性：‘The Artist of the Beautiful’を中心にした考察」『明星英米文学』22 明星大学英米語学文学会 (2007) pp. 43-53.

--- 「マザー・リグビーの魔法：魔女の力の限界から暗示される意味」『明星英米文学』23 明星大学英米語学文学会 (2008) pp. 131-39.

--- 「チリングワースの役割：『緋文字』における良い結果をもたらした復讐」『Evergreen』30 昭和女子大学大学院英米文学研究会 (2009) pp. 61-81.

--- 「プリシラの役割：ホーソーンの思想を完成に導いた最後の役割」『Evergreen』31 昭和女子大学大学院英米文学研究会 (2010) pp. 31-56.

追記：論文の記載漏れなどお気づきの点がございましたら、資料室担当者までお知らせください。また、論文などをご執筆された際には資料室に一部お送りいただくか、あるいはタイトルなどを資料室担当者までお知らせいただけましたら幸いです。(堀切)